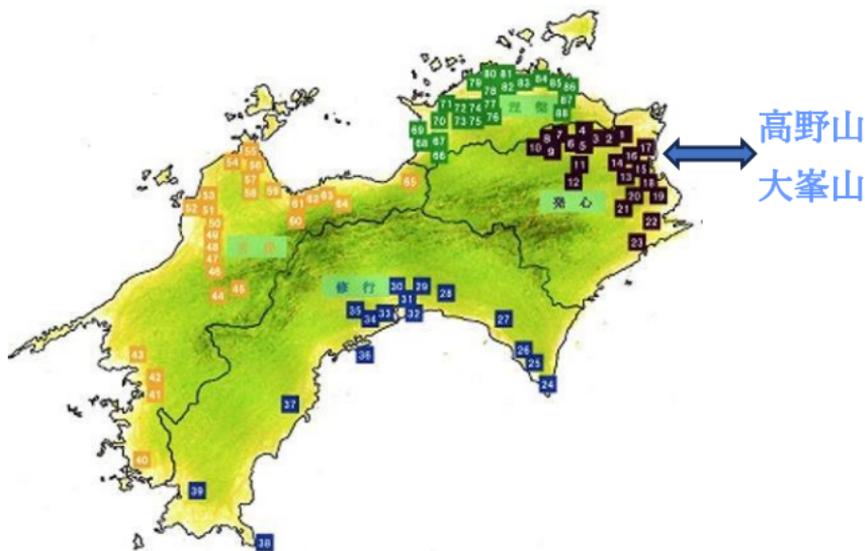


四国遍路～高野・大峯



大峰や よしのの奥の 花の果て (芭蕉の友人)
願わくは 花のもとにて 春死なん
そのきさらぎの 望月のころ (西行法師)

●高野・大峯回道

自転車遍路をしていた時、四国霊場第12番焼山寺から紀伊山地へと向かった。夕暮れせまる焼山寺の坂道を自転車で下り、小松島からフェリーに乗って、深夜、和歌山港に着いた。

徹夜で高野山へ走ろうとしていたが、途中で疲れ果て、バス停のベンチで眠ってしまった。

翌早朝、高野山へ24 kmの坂道を登ってゆく。ちょうど弘法大師御恩忌1,150年の年であった。高野山への坂道は大型バスや乗用車で大渋滞していた。そこを自転車はすりぬけるようにして登った。



大門が見えた時、自転車で高野山に来たという大感動ー。空海が開いた密教の聖地・高野の町を思う存分散策した。

宿坊に泊まり、朝の勤行に参加した後、大峯山へと向かう。



峠から、遥かな山々を眺め、旅の行方を祈る。野迫川村、大塔町を通り天川村へ。

紀伊山地の奥深く、自転車は風のように山間を駆けぬける。

煩わしい世界から解き放たれ、全く自由になったかのような、とても爽快な気分であった。

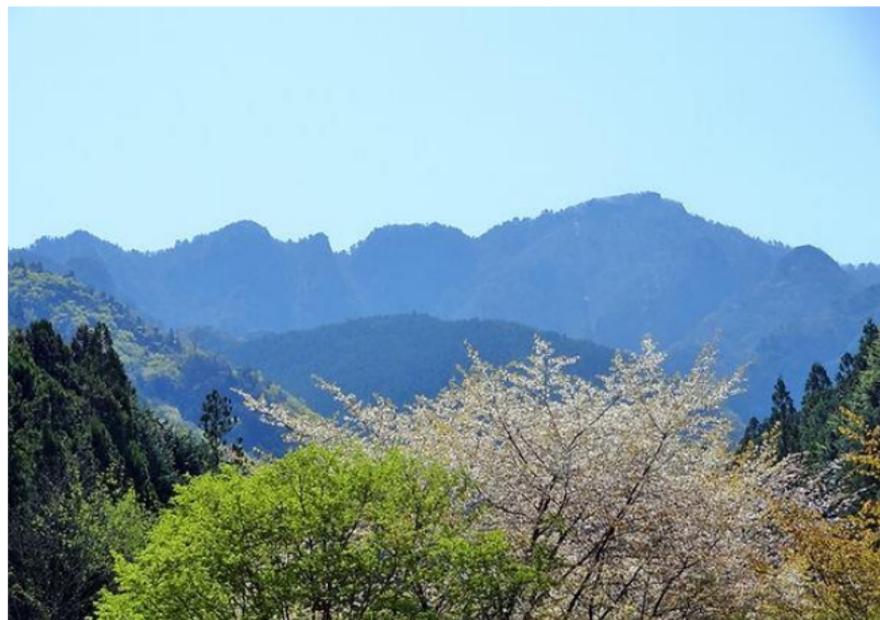
途中天河神社に詣で弁財天女に挨拶をする。



隣地にそびえるイチョウの大木の下、空海が修行していたという霊地に阿字観碑(写真)が立っている。

その日は大峯登山口近くにある洞川の民宿に泊まった。

夜、宿の主人から「今年は雪が多く大峯山に登るのは危険だ」と忠告を受けたのだが、翌朝、天気もよかったので登ることにした。



登山口に自転車を置き、白衣に着替えて大峰山(山上ヶ岳 1,719m)へ向かった。頂上は白一面、大峯山寺の屋根近くまで雪が積もっていた。お花畑に出ると、白銀に輝く弥山が勇壮にそびえ、熊野に続く「75 靡」の山脈が見渡せる。

快晴、雪の霊峰、山頂には誰一人いない、早春の美しい風景に溶け入ってしまった。もうこのまま、消えてしまってもいいのにと想っていた。

しかし、午後過ぎ、山を降りることにした。
下山、かの宿の主人に無事に帰って来た
ことを告げて、吉野山へと向かう。

自然が奏でる山水の美しい回廊、くねる
山道、黒滝村を過ぎ、自転車は山間を駆け
貫ける風のように走る。

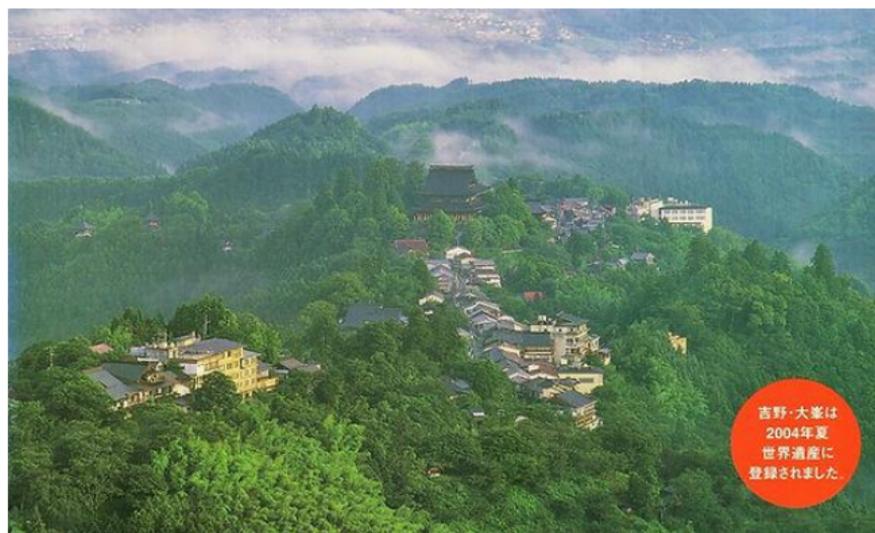
絶えず新しい景色が展開する。

夕暮れから夜へ、吉野山に到着する。

満開の夜桜。何とも異様な風景だった。

うす桃色に染まった夜桜の中で、宴会が
行われていた。

優雅な妖艶の舞い…。



吉野・大峯は
2004年夏
世界遺産に
登録されました。

その日は金峰山寺に詣で、蔵王堂(写真)の縁側で、野宿をさせてもらった。寝袋にくるまって思い出していた。



この吉野山から、はじめて大峯山に登った時のこと一。

あの日は登り口の金峰神社で野宿をしていた。朝、数珠を繰る音で目が覚めた、そこに一人の修験者がいた。

その人の後を追って、大峯山・山上ヶ岳へ登ったものだった。

その修験者は、常人では考えられない大峯山 1,000 日の回峰行をされているY

氏であった一。

吉野から毎日、片道 24 kmある山上ヶ岳を往復し、様々な修行をされている。

死の極限を跋涉する荒行である。

大峯山は、役行者(えんのぎょうじゃ)が開山した修験道発祥の地で、今でも女人禁制の霊山となっている。

役行者は 7 世紀末、当時悪にまみれた世の中を救ってくれる仏の出現を祈って、大峯山で 1,000 日の山籠もりをされていた。

修行のかいがある、最初に釈迦牟尼仏が現れた。次に弥勒菩薩、次に地藏菩薩、次々と菩薩が現れたが、柔和な姿では今の濁世は救えないと、更に祈願を凝らしていく内……、

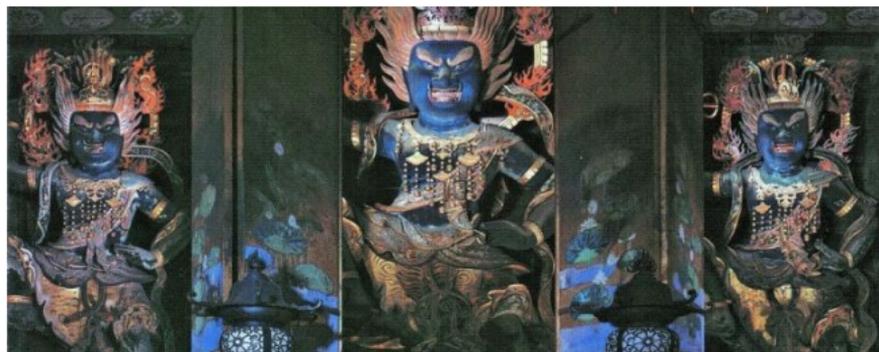
凄まじい忿怒の相で障魔降伏の姿をした「金剛蔵王権現」が出現された。役行者は涙を流して絶唱されたという。



その地が大峯山頂にある湧出ヶ岳で、役行者はその御姿を吉野桜の木に彫り写して修験道の本尊とされた。

その勇姿は、日本第一「金剛蔵王権現木像(源慶作)」として吉野如意輪寺に納められている(上記写真)。すさまじい修験の様相と力を現している。

修験道の聖地である金峰山寺・蔵王堂(国宝)には、日本最大秘仏とされる三体



の「金剛蔵王権現」が祀られている。尊像の高さは何と7m級で、目前で拝見するとその靈威に圧倒される。(特別御開帳のある日に拝観可)

三尊は、

真中が釈迦如来(過去)、

向かって右が千手観世音菩薩(現在)、

左が弥勒菩薩(未来)の变化身で、

三世に渡り行者を守る守護仏とされる。

「金剛蔵王権現」は悪魔を降伏し魔性を粉碎して生きる勇気を湧出させる。

<真言>

おん ばざらくしゃ あらんじゃ うん

そわか

また、役行者は、孔雀明王の呪術を自在に駆使していたと伝えられている。孔雀は毒蛇を喰らい明王は炎で煩惱を焼き清め正しい道を照らし出す。

<真言>

おん まゆーら きらんてい そわか

その後、自転車遍路は……

全走行距離 1,519 km、21 日目に四国八十八ヶ所霊場+高野・大峯・吉野紀行を結願した。忘れえぬ高野・大峯回道一。



(関連) 動画⇒ [大峯山修験](#)

●高野山・護身法

高野山・奥の院は静謐の聖地、
今もなお、空海が禪定を続けていると
信じられている。

昔、普通では考えられない光景に出会
った。

…深夜の奥の院、さい銭箱の上に登
り、仁王立ちになって祈禱している行
者がいた。その人は、空海の庵に向か
って、激しく印を切っては大声で呪文
を叫んでいた。破天荒な修験者であっ
た。

…ある日、奥の院の縁台のはずれに、
一人の少女が座り込んでいるのを見
た。うなだれた様子で、気になって声
をかけようかと思っていると、僧侶の
方が歩み寄って話しかけられた。何か
理由があったようだ。その子は靴を履

いておらず、裸足のまま、高野の町をさまよい歩いていたのだった。

…以前、雪の積もった冬だった。明けやらぬ早朝、友人と奥の院の土間に正座して般若心経を唱えていた。空海大師を想い数珠を繰りながら108回唱え続けた。唱え終る頃、山は明るくなりキリッとした靈気に杉木立が輝き、何かが変わっていくように想えた。

…高野山には数多くの思い出がある。全国各地から、大勢の人々が高野山・奥の院を訪れる。様々な祈り抱いて、祈りが叶うことを願って、また心の癒しを求め、また生きる道を探して…。大木がそびえ立つ、静かな参道を歩くだけでも心が浄化されていく。

四国八十八ヶ所を巡礼し結願を終えた遍路は最後に高野山・奥の院に参拝して、ありがたき最後の御朱印を頂く。



高野山には、山深く人通りのない山中に「**真別所**」という修行専門の寺(円通律寺)がある。一般人は立ち入り禁止となっている。

真言密教の事相(実践的な修法)を修行し伝授する道場であるらしい。

その「真別所」で密教修行の指導に当たられていた、三井英光師(故人)にお会いしたことがあった。師は「入定留身(大師の生涯)」や「加持祈禱の原理と実修」など、著書も多く執筆されている。密教は奥深く、僧侶にならなければ修得することは難しい。

師は晩年、愛媛県のある寺で静かに暮らされていた。訪問すると、密教の話の色々と聞かせてくれた。

密教は、すべての生命の根源である大日如来(宇宙大霊)と一体となって生きる教えである。

そう生きるために、行者は様々な修行を行う。師は、一般人にもできるという「護身法」を教えてくれた。

…ただ一法でよい、

一心に行じれば如来に通じる。

護身法は、手に印を結び、口に真言を

となえ、意その三昧に入って、
全身全霊をもって神秘実在を体験しようとする修法である。この秘法を行じることによって、直ぐに<大安心>に住することができるようになる…。

【護身法】

本性清浄なる一切法よ、わが本性も清浄なり

オン・ソワハンバシユダ・サラバタラマ

ソワハンバ・シユドカン

如来を生ま出さんが為に、成就あれ

オン・タタアギヤト・ドハンバヤ・ソワカ

蓮華を生ま出さんが為に、成就あれ

オン・ハンドボウ・ドハンバヤ・ソワカ

金剛を生ま出さんが為に、成就あれ

オン・バゾロ・ドハンバヤ・ソワカ

金剛火の極めて輝きあらんが為に、成就あれ

オン・バザラギニ・ハラチハタヤ・ソワカ



●高野山紀行 2019



9月21日深夜に家を出て徳島港へ、午前3時前のフェリーに乗り早朝和歌山港についた。今では高野口まで高速道路ができています。そこから山に向かって約30km、高野山(標高約900m)に到着する。朝早くともあり金剛峯寺の正面駐車場に車を止めることができた。



今回は、真言密教の総本山・金剛峯寺で「阿字観」体験をした。

美しい回廊を巡り、大広間で休憩した後、別棟の阿字観道場に案内された。

阿字観とは宇宙の根源(大日如来)と一体化する密教の瞑想法である。

道場の真ん中に大きな「阿字」がかけられている。

その図の蓮華は高野山の八葉の峰を現し緑の地が高野の平地でその中央にこの道場が位置しているという。その上に阿字本尊が描かれている。

僧侶の指導により、礼式作法から調身、調息、調心と禅定に入る。1時間の体験であったが、清涼な空気の中で広大で静かな世界にしたることができた。道場を退室する時、一礼をし阿字本尊を見つめると一瞬一阿字が黄金色に輝きを放った。



「阿字観」とは

弘法大師さまのお言葉に「それ仏法遙かにあらず、心中にして即ち近し（仏さまの素晴らしい教えというものは、私たちの心の中に備わっている）」（『般若心経秘鍵』）とあります。それは私たちの生命が大宇宙から脈々と伝わり、様々な経験をいただいているということです。ですから私たちの悩みや苦しみの答えは私たちの心の中にあるのです。

私たちが大宇宙から脈々と伝えたいだいでいる共通した生命のことを「大日如来」といい、それを古くインドで一文字に表したのが「**阿**」であります。真理の言葉「**阿**」を心の中で念じ、また声に出すことで、大宇宙（大日如来）と一体になることを感じる瞑想法が阿字観です。

弘法大師さまも高野山奥之院で静かに人々の幸せを祈る瞑想修行をされています。

阿字観を体験することで、大宇宙のように大きくゆったりとした気持ちになってみませんか。心の迷いが晴れ、自分自身をしっかりと見つめることができる素晴らしい瞑想です。

その後、壇上伽藍周辺を散策し、
早めに今日の宿坊である「不動院」に入る。

高野山は約1200年前、空海大師が山岳修行を遍歴する折りに訪れていた平原の幽地である。時の天皇より一山を賜り、今では聖なる仏都、山全体が真言密教の修行道場となっている。

宿坊が52寺あり、今思い出すとこれまでに15ほどの寺院に宿泊している。

- 金剛三昧院
- 清浄心院
- 大明王院
- 蓮華定院
- 地藏院
- 福智院
- 西禅院
- 遍照光院
- 光明院
- 総持院
- 持明院
- 普賢院
- 三宝院
- 天徳院
- 龍光院
- ...



不動院は、山懐に抱かれ、俗世間を離れたかのような静かな地に立つ綺麗な宿坊である。図書館があって、普段では見られない密教の書物が多く置いてあり、関心を持って読んでいた。

精進料理をいただき、風呂に入り、長い縁側の木のローカに座りライトアップされた山肌の庭園をながめたりして過ごした。



翌朝4時ごろに目が覚め、奥の院へ参拝に行った。

一の橋から奥の院までは約2km、石畳や階段が続いている。暗闇の中、薄明に照らされた参道を行く。両端には杉木立と多くのお墓が並んでいる。

見上げると杉の梢の隙間に半月が見え隠れする。

まだ明けやらぬ早朝、奥の院に到着。奥の院は空海大師が入定された聖地で、今もなお大師は禅定を続けられていると言われている。

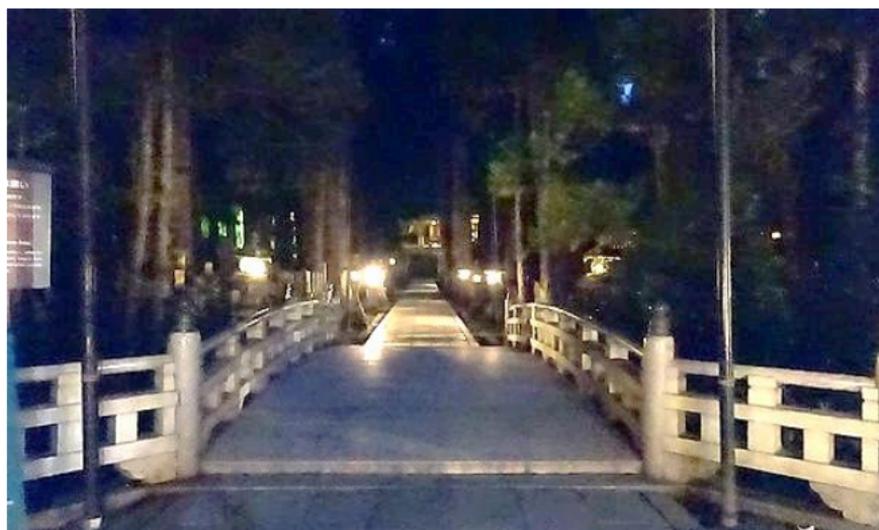


奥の院の前では、
静謐にひたるかのように一人、黄色の
僧服を着た僧侶が瞑想をされていた。
燈明を灯し香を捧げ般若心経を黙拝す
る。

しばらく奥の院の庵をながめていた。
時々そよ風が杉木立を揺らし、時に音
を立てて吹いてゆく。

その僧侶は微動だにせず、ずっと瞑想
を続けられていた。

奥の院の前庭に戻り、杉の大木にもた
れて空を見上げていた。



庵を包みこむように大きないくつもの杉の木がそびえている。その間の上空が次第に群青色を帯びてくる。

風が吹き杉の枝が音を立てその梢が大空に揺れる。空の向こうから宇宙に住む「菩薩」の姿が現れて来るような崇高で美しい何とも言えない不思議な感覚にうたれた。

ほの明るい光の、やさしく力強いエネルギーが降り注ぎ、その場を満たしているようだった。ひととき、その心地よい感じに慕っていた。



奥の院の階段を下り、参道を帰る頃、あたりはもう夜明け。歩いている体が何故か空気のように軽くなっているのを感じた。

不動院に戻り、7時から朝の勤行に参加する。薄暗い堂内に香がたなびき荘厳な般若理趣経が響く。

もうすぐ母の一周忌ともあり、今後1年間不動院で供養してもらうことにした。

朝食をいただき、宿を出たのち、今度は中の橋から奥の院への参道を歩いていった。



早朝には奥の院で禅定に入っている空海大師に朝食を届ける僧侶たちに出会ったのだが、今度は昼食を届ける僧侶たちに出会った。

参拝者が多く、観光団体の後を行くとガイドさんの説明が自然と聞こえて来る。昼間の参道はまた違った雰囲気がある。奥の院へ参拝するのなら、早朝の静けさの中を歩いて行く方がより高野山の靈気を体感することができる。



お香やおみやげを買い帰途についた。
台風の接近でフェリーが欠航となった
ので、大阪・神戸を経て淡路島に渡っ
た。

台風の影響で鳴門大橋が通行止めにな
るその寸前であった。強風の中、四国
に帰り着くことができた。

(2019.9.21~22)



(関連) 動画

⇒ [霊峰♪\(ダライラマ法王 14 世が高野山を
訪れた日に 2011.11\)](#)